

1 市区町村別生命表について

(1) 生命表とは

生命表とは、ある人口集団の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が死亡する確率や平均してあと何年生きられるかという期待値などを死亡率や平均余命などの指標（生命関数）によって表したものである。

これらの生命関数は、男女別に各年齢の死亡数と人口によって計算されるため、その値はその人口集団の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表している。したがって、国、都道府県、市区町村など特定の人口集団の死亡状況を厳密に分析する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、全ての年齢の死亡状況を集約したものであり、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

(2) 市区町村別生命表

市区町村別生命表は、死亡状況を市区町村単位で比較するため、国勢調査による日本人人口（確定数）と人口動態統計（確定数）による日本における日本人の死亡数、出生数をもとに、平成12年から5年（国勢調査年）ごとに作成し、今回が4回目である。

市区町村別生命表では、人口規模の小さい地域の死亡状況を扱うことから、5歳階級ごと（5歳未満は0歳と1～4歳に分割）の死亡率に対して、小地域の死亡率推定に有力なベイズ推定を用いて死亡率の安定化を図っている（6頁参照）。

なお、市区町村別生命表に掲載されている全国値並びに都道府県、政令指定都市及び東京都特別区部の値は、市区町村の値との比較の観点から、各市区町村と同様の方法で算出した「参考値」であり、完全生命表及び都道府県別生命表の値とは異なっている。

(3) 基礎資料

平成27年市区町村別生命表は、人口動態統計（確定数）による日本における日本人の死亡数（平成26年～28年）及び出生数（平成25年～28年）、平成27年国勢調査による日本人人口（確定数）を基礎資料としており、平成26年～28年の市区町村別の日本人の死亡状況を表している。

(利用上の注意)

1. 対象市区町村について

この生命表における市区町村（区は特別区及び行政区としている）は、平成 28 年 12 月 31 日時点のものである。また、その対象は、人口動態統計の観察対象範囲に含まれる同時点における 1896 市区町村のうち、平成 27 年 10 月 1 日現在、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示区域に指定されていた町村をはじめとする平成 27 年国勢調査人口が過少である 8 町村（福島県双葉郡檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び相馬郡飯舘村）を除く 1888 市区町村としている。

2. 端数処理について

小数点以下第 2 位で四捨五入したものを表章している。

表章記号の規約

…	計数不明または表章することが不適当な場合
---	----------------------